

■■■演壇にて■■■

皆さん、おはようございます。三度のメシより佐渡が好き！！政風会代表の室岡啓史でございます。一般質問の機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。ウィズコロナにおいても、まずは気持ちから「前向きの島づくり」を念頭に置き、通告に従い、一般質問を致します。

なお、本日の配布資料は、「室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会」ホームページで見ることができますので、テレビ等をご覧の方は「室岡ひろし」でインターネット検索していただき、是非ともご確認ください。

さて、バスケットボールワールドカップ2023沖縄大会ではたくさんの感動をいただきました。とにかく1勝してアジア1位となりパリオリンピックへの出場権を獲得することを目標に掲げた日本代表は、48年ぶりの自力出場を達成。歴史を塗り替え、1勝するどころか3勝2敗で勝ち越して大会を終えるという大快挙を成し遂げました。キャプテンで新発田市出身の富樫勇樹選手、パリオリンピックへ行けなければ代表引退を宣言していた渡邊雄太選手、チーム最年長の比江島慎選手、日本に帰化したジョシュ・ホーキンソン選手といったベテラン勢と若き22歳のポイントガード河村勇輝選手と3ポイントシューター富永啓生選手など、ベテランと若手との才能が融合する素晴らしいチームとなりました。東京オリンピック2020女子バスケットボールチームに銀メダルをもたらしたトム・ホーバスヘッドコーチの手腕も大きかったのだと思います。特に、フィンランド戦、ベネズエラ戦での第4クォーターでの大逆転劇はとても興奮しました。まるで、バスケットボール漫画の「スラムダンク」を読んでいるかのように感じました。日本代表チームにあやかって、私もこの一般質問で佐渡市政に対して「スラムダンク」をお見舞いしたいと思います！

思い起こせば、サッカーのワールドカップ2022カタール大会では、優勝経験国のドイツ・スペインに逆転で勝利し、野球のワールドベースボールクラシック2023では準決勝メキシコ戦、決勝アメリカ戦での逆転勝利、先日の若き侍ジャパンも台湾に逆転で初の世界一。今大会でのバスケットボールワールドカップのフィンランド戦、ベネズエラ戦での大逆転勝利、ラグビーワールドカップフランス大会のチリ戦も逆転勝利するなどスポーツにおける日本代表が世界の強豪相手に大逆転勝利する場面が数多く生まれており、見ているだけで勇気づけられる奇跡だと思います。

来る10月9日（月祝）スポーツの日には、アミューズメント佐渡大ホールにおいて、侍ジャパンの監督を務め、第5回ワールドベースボールクラシックで3大会ぶりの優勝を果たした栗山英樹氏による講演会が開催予定ですので、皆さんと聴講したいと思います。<https://www.city.sado.niigata.jp/site/amuse-sado/53370.html>

佐渡市としても、コロナ禍を乗り越えウィズコロナ、アフターコロナを見据え、世界文化遺産登録を実現させて大逆転の観光振興を成し遂げなければならない局面に来ております。「チーム佐渡」として一丸となり、総力戦でがんばって参りましょう！

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、「佐渡ヶ島（SDGs）集落ツーリズム構想」の実現にむけて質問致します。

◎佐渡ヶ島（SDGs）集落ツーリズム構想の実現に向けて
【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】の計画に関する確認と提案

- (1) 一般社団法人佐渡観光交流機構と一般財団法人佐渡文化財団について
 - ① 両法人の不祥事についての改善策を何と考えるか
 - ② 両法人の専務理事、常務理事の着任状況はどうなっているか
 - ③ 両法人を統合し、佐渡観光文化交流機構（仮称）にして再始動するべきではないか

- (2) さどの島銀河芸術祭 2024 について
 - ① 新潟県と連携しながら、文化庁の補助金を有効活用するべきではないか
 - ② 能舞台及びジオサイトをアートスポットにしてアートツーリズム、観光地域づくりを推進するべきではないか
 - ③ 大地の芸術祭や瀬戸内国際芸術祭などに追従する努力が必要ではないか

- (3) 防災減災対策について
 - ① 気候変動に伴い全国的に頻発している豪雨、風雪害、地震などの災害への備えは十分なのか
 - ② 今冬の停電を教訓にしたアウトドア防災の啓発活動を推進するべきではないか
 - ③ 宝くじコミュニティ助成事業等を活用した自主防災組織等との連携による必要器具の購入促進をするべきではないか

=====
(1) 一般社団法人佐渡観光交流機構と一般財団法人佐渡文化財団についてお尋ねします。

① 両法人の不祥事についての改善策を何と考えるかお尋ねします。平成30年4月設立の佐渡観光交流機構。同年7月設立の佐渡文化財団の両組織です。佐渡市監査委員から、令和5年3月には佐渡観光交流機構負担金について、令和2年4月には佐渡文化財団設立準備委員会負担金、佐渡文化財団運営費補助金についてそれぞれ指摘がされております。これらの改善策を何と考えるか市長、教育長の見解をお聞かせください。

② 両法人の専務理事、常務理事の着任状況はどうなっているかお尋ねします。私はどちらも空席であると認識しておりますが、あらゆる組織において、専務理事と常務理事というのはトップに次ぐ重要なポストであると言えます。旅館で例えるならば、専務理事が番頭さん、常務理事が女将さんだと私は思っています。番頭さんも女将さんもいない旅館で、たくさんのお客様に素晴らしいサービスを提供できるとは到底思えません。そこで、両法人について早期に専務・常務を招聘するべきではないでしょうか。また、理事長も無報酬ということが本当に良いのか検討する必要があると考えます。このことについて、市長、教育長の見解をお聞かせください。

③ 両法人を統合し、佐渡観光文化交流機構（仮称）にして再始動するべきではないかということについてお尋ねします。2018年3月に私は、佐渡市議会本会議における討論の中で下記のように述べております。

『4月2日には佐渡版DMOである一般社団法人佐渡観光交流機構、7月には一般財団法人佐渡文化財団の立ち上げが予定されており、両組織による観光地域づくりの推進と文化保全・活用との融合が期待されるところであります。また、夏には国際文化芸術発信拠点形成事業、「響く島。佐渡」プロジェクト」として、さどの島銀河芸術祭やアース・セレブレーション、北沢浮遊選鉱場ライトアップ等、さまざまな事業が開催される予定です。文化庁（国）から5,000万円の補助が予定されており、総事業費1億1,500万円を有効に活用することで佐渡が誇る自然、文化、芸術の魅力が島内外へと伝わっていく絶好の機会となるでしょう。島の中でヒト・モノ・カネがぐるぐる回ることを想起するだけでもワクワクします。』

あれから早5年、、、新型コロナウイルス感染症に翻弄されたことを差し引いても、両法人による観光地域づくりの推進と文化保全・活用との融合が進んでいるとは到底言い難い状況だと私は感じます。そこで、文化・観光・経済の好循環を起すべく、緊密な連携が必要であり、理事長・専務理事・常務理事や理事会メンバーを少数精鋭にして推進するためにも、人件費コストを抑え効率化を計るためにも、両法人を統合し、佐渡観光文化交流機構（仮称）にして再始動するべきであるというのが今の私の考えです。このことについて、市長、教育長の見解をお聞かせください。

(2) さどの島銀河芸術祭 2024 についてお尋ねします。

① 新潟県と連携しながら、文化庁の補助金を有効活用するべきではないかということについてお尋ねします。文化庁から令和6年度概算要求の概要についての情報が出ました。前年度予算 1,061 億円に対して、+289 億円、27.2%増の 1,350 億円の予算となる予定とのことです。博物館機能強化推進事業、文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業など佐渡でも活用するべき事業が複数予定されております。また、新潟県にも「文化活動推進事業補助金」などがありますので、こういう補助金も活用しながら、佐渡での芸術イベントを推進するべきと考えます。さどの島銀河芸術祭 2024 はどうなる予定なのか、答弁を求めます。

② 能舞台及びジオサイトをアートスポットにしてアートツーリズム、観光地域づくりを推進するべきではないかということについてお尋ねします。佐渡島内には35+1（金井能楽堂）の能舞台があります。例えば、先般焼失してしまった二宮神社能舞台ですが、再建の機運を高めるためにも、境内に建っていた能舞台のシルエットを単管パイプで再現するといったアート作品をつくるなどを検討してはどうかと思っています。また、佐渡ジオパークとしては、島内に59のジオサイトがありますので、例えば背合の人面岩に大きなおけさ笠を被せるなど、佐渡の魅力ある各集落や能舞台、ジオサイトなどに溶け込むような現代アートが展示され、それらをめぐるアートツーリズム（美術館・博物館などの展示施設や野外彫刻などの芸術作品を巡ることで地域の文化に触れる観光活動）を楽しめるようにするべきだと考えます。その他、既存の博物館や空き家なども活用して、100を超えるアートスポットをつくることできれば、佐渡において世界でココでしか味わえない佐渡の芸術祭＝略して「さどげー」をつくりあげることができ、芸術家と地元の方との連携による持続可能な観光地域づくりが可能になると確信しております。芸術祭によるアートツーリズムは、修学旅行や企業の研修旅行、ワーケーションとも相性が良いと感じます。このことについて市長の答弁を求めます。

③ 大地の芸術祭や瀬戸内国際芸術祭などに追随する努力が必要ではないかということについてお尋ねします。2000年から新潟県の十日町・松代・松之山地域で始まった大地の芸術祭は、震災復興のシンボルプロジェクトとして、今日に至るまで注目を集めてきました。大祭の会期中は1日約1万人もの来訪があり、清津峡溪谷トンネルに張り巡らせたミラーと水鏡の作品はあまりにも有名です。また、2010年から瀬戸内海の12の島々と2つの港で展開される瀬戸内国際芸術祭も2019年には会期中に120万人の来訪、180億円にも上る経済波及効果を生んだとされます。どちらの芸術祭も国内外のアーティストを招聘し、200～300のアート作品が各地域に散りばめられるように展示されております。行政支援はもちろん、福武財団など民間企業の協賛や、上越市出身の北川フラム氏をアートディレクターとして起用し、どちらも成功を収めております。私は佐渡市としてもこれらの素晴らしい芸術祭に追随する努力が必要ではないかと考えますが、市長の答弁を求めます。

(3) 防災減災対策について

① 気候変動に伴い全国的に頻発している豪雨、風雪害、地震などの災害への備えは十分なのかということについてお尋ねします。国内外で地球温暖化に伴う異常気象による災害が頻発しております。この夏も九州や中国地方等で、ゲリラ豪雨が発生し大災害となりました。一方で新潟県内では猛暑、干ばつ状態が続き、農業にも多大な影響が出ております。ソフト／ハード両面からの災害への備えは十分なのか佐渡市の見解を伺います。

② 今冬の停電を教訓にしたアウトドア防災の啓発活動を推進するべきではないかということについてお尋ねします。当時、1日最大7,800戸、延べ17,200戸もの大規模停電が同時多発するという過去に経験のない災害となりました。直接的な死者がゼロであったということが不幸中の幸いですが、「想定外を想定せよ」という教訓を肝に命じる必要があります。そこで行政としては、アウトドア防災の啓発活動を推進する必要があると思います。アウトドア防災とは、アウトドアから学ぶ防災術のことであり、アウトドアの知識を活かす暮らしの中の防災意識向上のことです。アウトドアグッズは元々自然の中で使用される事を想定されて作られており、「非日常の空間を過ごす」という点では災害時と共通する部分があり、備えとして緊急時に直ぐに役に立つことが多いと言えます。広報やイベントなどによりアウトドア防災を推進するべきではないかと考えますが、市長の答弁を求めます。

③ 宝くじコミュニティ助成事業等を活用した自主防災組織等との連携による必要器具の購入促進をするべきではないかということについてお尋ねします。佐渡には324の自主防災組織があると認識しておりますが、テントや寝袋、マットレス、カセットコンロ、ポータブル電源など、上記のアウトドア防災に必要な器具を積極的に購入する機運を高めるべきではないでしょうか。1／2補助の佐渡市自主防災組織育成補助金制度があり、そちらも活用しながら、宝くじの社会貢献広報事業を推進する一般財団法人自治総合センターによる「コミュニティ助成事業」の防災部門も活用するのが最良だと思います。また、佐渡市の総合防災訓練などでも防災グッズの展示・販売などをするなどアウトドア防災も含めたさらなる啓発活動が必要だと考えます。このことについて、市長の答弁を求めます。

以上で、一回目の質問を終了します。
